1　静浦地区の学校の現状

（1）小中学校の児童生徒数減少

静浦地区には、静浦小学校、静浦東小学校、静浦西小学校の三つの小学校があるが、少子化傾向により児童数の減少が進み、平成 11 年度に 400 人であった児童総数が、平成 19 年度には 304 人に減少し、さらに平成 25 年度には 198 人にまで減少すると推計されている。平成 22 年度には、静浦小学校、静浦東小学校において複式学級の発生が予想されている。

また、静浦中学校においても、平成 24 年度には単学級の学年が発生すると予想されており、教員の配置も少なくなることにより専門教科外の授業を担当しなければならない場合もでてくる。

小規模の学校・少人数の学級では、子ども同士の触れ合いの機会が乏しく、多様な教育活動が制限されてしまう。また、授業においても、十分な教育効果を上げるには一定規模の集団が必要である。

＜検討委員の意見から＞

○現在、1 学年に児童が 6 人しかいない学校があり、学校行事、運動会などをやっても盛り上がりに欠け、寂しい。親として大勢の友達の中で過ごさせてあげたい。

○学校教育では、子ども同士が互いに刺激し合い、育っていく部分も大きいが、児童数が少ない学級では、そこが不十分な場合がある。

○小規模校では、一人一人に関わった対応ができるので、生活指導面では有効で、問題行動や不登校の児童生徒は少ない。しかし、人数が少ないと、集団の中での立場が固定し、「この子の言うことなら間違っていないだろう」という考え方をしてしまうことがある。

○中学校が単学級になると、免許外の授業をしなければならない教員もでてくる。

（２）静浦中学校の立地場所

静浦中学校は、山の中腹に校舎とグラウンドがあり、崖地に近接している。平成 7 年 7 月の給食室裏の崖崩れ、平成 15 年 4 月の通学路への落石など、これまでに数回にわたり校地や通学路への影響が出た。さらに、今年 9 月にも通学路の山腹で崖崩れがあり、通学路の一部が通行止めになった。

また、グラウンドの面積も市内中学校の中でも狭く、山の中腹部に位置するため拡張が困難であり、校舎についても、崖地に近接した現在の場所では建て替えが難しい。

崖崩れや落石について、防護フェンス設置などの対策は行われているが、根本的な安全対策は現在の場所にある限り困難であり、より安全な場所へ一刻も早く移転することが必要である。

＜検討委員の意見から＞

○崖崩れや落石などの他にも、人家のない山道を生徒が歩いて通う際の不審者の出没などの心配もあり、一刻も早く中学校を安全な場所へ移転してもらいたい。

○高校生や勤めに出ている人がいない昼間に地震が起きたら、地元では中学生が戦力になる。お年寄りを運び出すことは十分中学生ができる。しかし、今の校舎にいて校舎が被害にあったら、中学生は戦力ではなく救助対象の被害者になってしまう。早く中学校を山から下ろしてほしい。